

ロビン・フッドと行商人

- 1 さあさあ 皆さん お聞きなさい
ロビンとスカロックとジョンの話を
多くの方々を楽しませてきたように
きっと愉快な気分にしてくれましょう
- 2 高貴な血を引く三人の
弓の腕は折紙付き
弓矢は長く 腕は立ち
それはそれは評判の射手たち
- 3 これから語る物語は
ある夏の日の出来事
国王の鹿を射るために
シャーウッドの森に行つたときのこと
- 4 三人が道で出会ったのは
三人連れの行商人
荷物を背中に縛り上げ
地方の市に向かっていたところ
- 5 一ヤード半の高級オーツの棍棒を
三人それぞれ手に持つて
ノッティンガムに向かっていました
これは後でわかります
- 6 「行商人が三人やつて来る」と
ロビンは仲間に言いました
「奴らがここを立ち去る前に
背中の荷物の中味を見てやろう
- 7 「これは 皆さん」とロビン・フッド
「どちらに向かっておられる
ちょっと一休みして行かれぬか
皆さん長旅でお疲れであろう」
- 8 「休む必要は無い 先を急ぐ
ノッティンガムに急ぎ用がある」
「正直におっしゃるがいい」とロビン・フッド
「皆さん 難儀な旅で汗だくですぞ」

行商人らは 丘を越える旅また旅で

諍いさかいをする気力もありません

「やいやい 止まれ」とロビン・フッド

「ここは俺の土地だ

「ここは俺の縄張り 狩猟の場だ
知らなかつたとは言わせない

なんと大胆不敵な輩やからだ

先を急ぐとは無法者に違ひない」

どんな相手かを確かめようと

行商人らは振り向きました
しかし 返事をすることもなく

ふたたび道を行きました

ロビン・フッドは愛用の

立派な矢を抜き 弓を引きました

矢は疾風はやかぜのごとく飛んで行き

後ろを行く行商人の荷物を貫きました

矢が荷物に当つたのは幸いでした

さもなくば 命を落すところでした

矢は背中の皮膚まで届きましたが

荷物に守られてそれ以上は進みません

行商人らは荷物を投げ捨て

ロビンが来るのを待ちました

「だから止まれと言つただろう」とロビン

「聞かないおまえらが悪いのだ

「一体何者だ 名乗らなければ

クリスピヌスに賭けて 即刻頭をかち割るぞ

それとも 何人がかりでもかかつて来るか
名乗るか勝負かどちらか選べ

「俺は ロビン・フッドで

これはスカロックにリトル・ジョン

見ての通り 三対三だ

度胸があるなら さあひと勝負」

16

17

行商人の一人が躍りかかると

ロビンの弓が砕けました

スカラックとジョンも

他の二人に苦戦しました

18

「手を止めろ」とロビン・フッド

「おまえらのオーケの棍棒にはかなわぬ
俺たちも棍棒を手に入れるまで
ちょっと待ってはくれまいか」

19

サークスのキットと名乗る行商人が

その申し出を受け入れました

三人は行商人に仕返しするため

それぞれ棍棒を持ちました

20

棍棒がうなりをあげ

相手の背中を打ちました

荷物を降ろさなければよかつたと

行商人らは後悔しました

21

しかし 行商人らは自由自在の棍棒さばき

とうとうロビンも後悔しました

猛攻を受けたスカラックもジョンも

顔面蒼白になりました

22

ついにキットのオーケの棍棒が

うなりをあげてロビンの頭を一撃し

ロビンはよろめき ふらつき 大地に倒れ

周囲の木々もまわりました

23

「手を止めろ」とリトル・ジョン

スカラックも言いました

「見てみろ お頭かしらが殺された

二度と口を開くまい」

24

「まさか死んではいないだろう」とキット

「この男はいい奴だが

賢明になるよう学ばせるんだな
行商人の邪魔をしないようにと

25

「袋の中にあるバルサムが
すぐに傷を治してくれよう」
キットは苦しく喘ぐロビンの口に
薬草を流し込みました

26

「それでは失礼」とサークスのキット
「わしらに出会ったことを口外するな
言いたいのならこう加えろ
難儀な目にあい汗だくだつたと」

27

行商人らは 気絶したロビンを放つて
ノッティンガムへと急ぎました
スカラックとジョンが看病するうち
ついにロビンは目が覚めました

28

ロビンは口に入ったバルサムを
いつたんは飲み込みはしましたが
次の瞬間 吐き気を催し
すっかり吐き出したのでした

29

スカラックとジョンは

氣を失った頭を見守つて
ひどい悲しみに打ちひしがれ
両目も髪も 顔中を涙で汚していました

30

こうして事件は落着しました
喧嘩を仕掛ける際にはご注意を
相手が手強くないかを確かめましょう
さもなければひどい目に遭いますよ

(吉田友紀訳)